

KODAMA YOSHIO



15 Apr 52

KODAMA YOSHIO: Powerful ultranationalist, still purged, poses subversive potential of covert nature. Once a Class "A" war criminal, now released from Sugamo, but following prewar pattern of extreme rightist ideology. Still relatively young, possessing magnetic personality, has shown leadership qualities since 1929 when he joined an anti-Communist society for the first time. Studies under well-known ultranationalist leaders during 1930s. Joins numerous anti-Communist, "Imperial Way" pro-Emperor organizations. Particularly active among youth. Series of arrests follow early involvements in assassination plots. Makes many trips to Manchuria, North China during expansion era; advocates strong China policy. Later trips receive Foreign Office backing. Establishes intimate ties with militarists. Organizes lucrative purchasing agency working in Shanghai for Naval Air Force. Member of Cabinet Advisory Council 1945. Reportedly still maintains high level political connections; also allegedly keeps up Chinese ties, engages in anti-Communist information gathering; active in postwar ultranationalist circles.

NAZI WAR CRIMES DISCLOSURE ACT

Declassified and Approved for Release
by the Central Intelligence Agency
Date: 5-005

1 NOV 1949

兒 玉 稔 士 夫 之 別 名 武 者 小 崎 武 春

生 年 月 日

明 治 四 十 四 年 二 月 十 八 日

本 籍 地

福 島 縣 安 達 郡 本 宮 町 字 粟 塚

為 任 所

京 京 都 目 黒 區 補 の 次 長 八 三 登 地

學 歴

朝 鮮 精 進 の 專 門 密 達 院 第 二 學 年 修 業

前 科

昭 和 四 年 二 月 十 八 日 京 京 都 監 獄 判 所 に 於 て 自 動 車 取 締 違 反 に 於 て 自 動 車 取 締 違 反 に 於 て 罰 金 二 十 圓 同 五 年 一 月 京 京 地 方 裁 判 所 に 於 て 罰 金 五 萬 圓 同 六 年 十 月 京 京 監 獄 判 所 に 於 て 罰 金 五 萬 圓 同 九 年 十 二 月 京 京 地 方 裁 判 所 に 於 て 保 護 勒 令 罰 則 處 分 被 入 予 監 禁 (天 行 會 獨 立 青 年 社 理 件) に よ り 懲 役 三 年 六 十 日

傳 動 經 歴

小 學 於 平 業 後 家 出 し 朝 鮮 福 田 の 華 僑 の 許 に 寄 留 し て いた が 後 上 京 叔 命 職 入 も な り 。 其 の 間 清 國 支 那 總 務 司 創 建 の 株 主 社 長 昭 和 三 年 二 月 乃 興 會 に入 會 。 後 江 京 進 會 會 長 佐 藤 辰 吉 年 部 長 と な り 此 の 間 四 三 年 一 月 乃 興 會 を 離 離 し 同 年 十 一 月 大 出 部 長 を 申 出 し 申 出 した 新 勞 務 協 會 の 結 成 を 阻 止 す べ く 天 皇 陛 下 に 直 訴 を 呈 上 せ ず 前 述 の 運 び 處 刑

一 611

其後臨時會を撤退し昭和六年二月津久井瀨尾を墜落せしむる存続愛國
黨に加盟し其後大日本青年同盟。大日本空蓋隊に入り此の間同年三月
月帝國議會開場を第一等勳章を授けし。このころを同四月一、露
國大使館を焚焼し、同五月井上馨を刺殺した。昭和七年二月出陣後國もな
く遊説し滿洲國自治指導部を創立し、安東、遼寧、吉林に盟興し同年七月
を結成その社長となりその頃より右翼派八咫田菜を擁じて、眞田、秀三
を中心とする天行會を擁護するに至り同會の紅頭。涌上。岡田等と
共に政黨射撃。露巨を破殺して強方内閣の出現を促進せんとし、協定
が未だに發覺して千葉縣下に於て露捕されその際ビスマルク自決を
企てた。其後支那學藝勸進會、や頭等大衆黨の板倉瀧三郎等と對立
問題解決同盟を組織し同十三年十月飯塚與志雄等と共に日本青年運動
會を立ち上げ九月支那新中央政權支援同盟を組織し近衛馨明に則
りたる政府の對支政策を支持して機關紙「大衆」等を通じて宣傳活
動を行ひ又屢々中支方面に來往した。同年十二月興亜青年運動會を起
し國內の現狀に對して強い不満を蔽し不穩の言助多く警界上、要法
界人物として注意されたい。

太平洋戦争勃發後中支に旋り上極を足場として海軍軍艦の特務機關とし

して「兒王機關」を主宰し中支方面物資の收奪及諜報謀略にらつ活躍

を振り終戦時に於ける兒玉檢討の資産は三億乃至五億と稱せられた
終戦後A級戦犯として集鴨に收容されたが昭和二十三年十二月解放
された。解放後は原籍鹿所に居を定め、同志吉田彦太郎等の振動元
織産業（木挽町五ノ二）を根拠として、同志との連絡密策を行つて
いる。同人を纏る人物特に前記吉田彦太郎・高源軍吉（元綠産業副
社長）奥戸足百・新夕刊社社長島田幸四郎及梶川直采の元銀屋南第一
派。鐵砲七ノ一小澤精旅館板倉精三郎、銀座店（パイナメント）職
吉野等種兒玉檢討の資産を續つて暗斗を續けて居る。尙兒玉は薩里
見家團（上海、海軍側）及上海機關の特務機關坂田俊也とも極
連絡がかり密貿易専業に關係者が浮かんで居る。其他政界及反共。
吾黨の資金網として兒玉一派の働きは注意を要するものがある。
二十四年六月反共出版社（ロウソク社系）より「われ敗れだりし」を
出版した

同誌と本名との連絡は興味がある